

うたにあわせて

あいうえお

音読

しせいに気をつけて
読んでいます。



話し合い

自分たちでも

うたにあわせてあいうえお
のうたをつくりました。

四文字のリズムで... 文にして...



口の形を意識して
います。

あじさい
あさがお
あいうえお

いらいろ
いいこと
あいうえお

うれしい
うきうき
あいうえお

えんぴつ
えがお
あいうえお

おしえろ
おりがみ
あいうえお

あめがらったとおもったら
あめがふってきた
あいうえお

いちぶが
いっばい
あいうえお

うしが
うみにいった
あいうえお

えんぴつで
えをかいた
あいうえお

おかめが
おっぱ
あいうえお

たんぽぽのちえ

〈たんげんのめあて〉

じゅんじょに 気をつけて 読もう。

「たんぽぽのちえ」を
聴いて、絵をじゅんばんに
ならせよう！

ミツシヨ①



文がばらばらになってしまった！
正しいじゅんじょに
ならせなおせるかな？

ミツシヨ②



このころになると、それまで たおれていた 花の じく
が、また おき上がります。そうして、せのびを するように、
ぐんぐん のびて いきます。
なぜ、こんなことを するのでしょう。それは、せいを 高く
する ほうが、わた毛に 風が よく あたって、たねを とお
くまで とほす ことが できるからです。

やがて、花は すっかり かれて、その あとに、白い わた
毛が できて きます。
この わた毛の 一つ一つは、ひろがると、らっかさんのよう
になります。たんぽぽは、この わた毛に ついて いる たね
を、ふわふわと とほすのです。

二、三日たつと、その花は しぼんで、だんだん 黒っぽい 色
にかわって いきます。えらして、たんぽぽの 花の じくは、
かたじけなく じゅんばんに たおれて しまいます。 ありません。
けれども、たんぽぽは、かれて しまったのでは ありません。太
く じくを しすかに 休ませて、たねに えいようを たくさん
ためておきます。こうして、たんぽぽは、たねを とお
くのです。

このように、たんぽぽは、いろいろな ちえを はたらかせて
います。そうして、あちらこちらに たねを ちらして、あた
らしい なかまを ふやして いくのです。

春になると、たんぽぽの 黄色い、きれいな 花が さきます。
よく 晴れて、風のある 日には、わた毛の らっかさんは、
いっぱい ひらいて、とおくまで とんで いきます。
でも、しめり気の 多い日や、雨ふりの 日には、わた毛の ら
っかさんは、すぼんで しまいます。それは、わた毛が しめつ
て、おちく になると、たねを とおくまで とほす ことが
できないからです。

文しよりの「たんぽぽ」
手がかりにすれば、
正しいじゅんばんに
できかなうか？

たんぽぽの ちえと
そのりゆきを さがそう！

ミツシヨ③



文しよりの「たんぽぽ」
に、ちえとりゆきは
書かれていないかな？

① 読みかきして、二、三日たつと、その花は しぼんで、だんだん 黒っぽい 色にかわって いきます。えらして、たんぽぽの 花の じくは、かたじけなく じゅんばんに たおれて しまいます。 ありません。けれども、たんぽぽは、かれて しまったのでは ありません。太く じくを しすかに 休ませて、たねに えいようを たくさん ためておきます。こうして、たんぽぽは、たねを とおくのです。

② このころになると、それまで たおれていた 花の じくが、また おき上がります。そうして、せのびを するように、ぐんぐん のびて いきます。なぜ、こんなことを するのでしょう。それは、せいを 高くする ほうが、わた毛に 風が よく あたって、たねを とおくまで とほす ことが できるからです。

③ 春になると、たんぽぽの 黄色い、きれいな 花が さきます。よく 晴れて、風のある 日には、わた毛の らっかさんは、いっぱい ひらいて、とおくまで とんで いきます。でも、しめり気の 多い日や、雨ふりの 日には、わた毛の らっかさんは、すぼんで しまいます。それは、わた毛が しめつて、おちく になると、たねを とおくまで とほす ことができないからです。

① 読みかきして、二、三日たつと、その花は しぼんで、だんだん 黒っぽい 色にかわって いきます。えらして、たんぽぽの 花の じくは、かたじけなく じゅんばんに たおれて しまいます。 ありません。けれども、たんぽぽは、かれて しまったのでは ありません。太く じくを しすかに 休ませて、たねに えいようを たくさん ためておきます。こうして、たんぽぽは、たねを とおくのです。

② このころになると、それまで たおれていた 花の じくが、また おき上がります。そうして、せのびを するように、ぐんぐん のびて いきます。なぜ、こんなことを するのでしょう。それは、せいを 高くする ほうが、わた毛に 風が よく あたって、たねを とおくまで とほす ことが できるからです。

③ 春になると、たんぽぽの 黄色い、きれいな 花が さきます。よく 晴れて、風のある 日には、わた毛の らっかさんは、いっぱい ひらいて、とおくまで とんで いきます。でも、しめり気の 多い日や、雨ふりの 日には、わた毛の らっかさんは、すぼんで しまいます。それは、わた毛が しめつて、おちく になると、たねを とおくまで とほす ことができないからです。

きつつきの商売

林原 玉枝
村上 康成
絵 作



この物語は、主人公のきつつきが、「おとや」というお店を開いたお話です。

きつつきが出す音を聞いたお客さんは、どんな気持ちになったのか音読を通して読み取りました。

どんなお客さんがきつつきの所に来たのか、そしてどんな音を出してお客さんを楽しませたのかなどを考えることができました。

まとめ方を工夫して、ノート、ワークシート、はがき新聞など多様な方法を取り入れ、子どもの考えを引き出す方法を試みました。

はがき新聞

きつつきの商売 3場面

① お店のへ、きつつき、おとや、おとやのきつつき

② 時、おとやのきつつき、おとやのきつつき

③ おとやのきつつき、おとやのきつつき

④ きつつき、おとやのきつつき

きつつきの商売 3場面

① 店の人、おとや、おとやのきつつき

② 森の中、おとやのきつつき

③ きつつき、おとやのきつつき

④ おとやのきつつき、おとやのきつつき

ワークシート

きつつきの商売 3場面

① 店の人、おとや、おとやのきつつき

② 森の中、おとやのきつつき

③ きつつき、おとやのきつつき

④ おとやのきつつき、おとやのきつつき

ノート

きつつきの商売 3場面

① 店の人、おとや、おとやのきつつき

② 森の中、おとやのきつつき

③ きつつき、おとやのきつつき

④ おとやのきつつき、おとやのきつつき

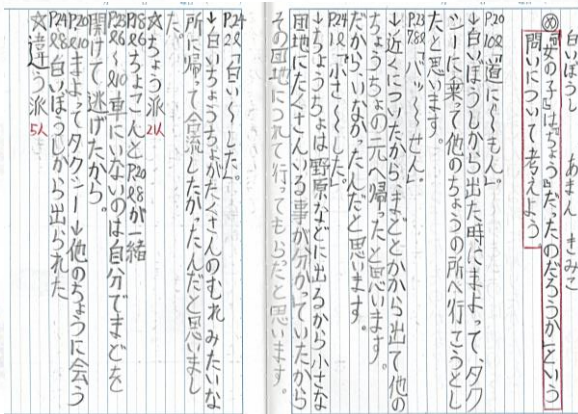
「白いぼうし」 あまんきみこ

本作品は、登場人物が現実の世界と不思議な世界を行き来するという構成で描かれています。「場面と場面をつなげて読み、考えたことを話そう」を目標に、「不思議＝ファンタジー」を意識しながら、子供たちは楽しんで読み深めてきました。初発の感想→読み深めたいことを短冊に→それを学習課題にして授業を進める→この授業を通して振り返り感想文

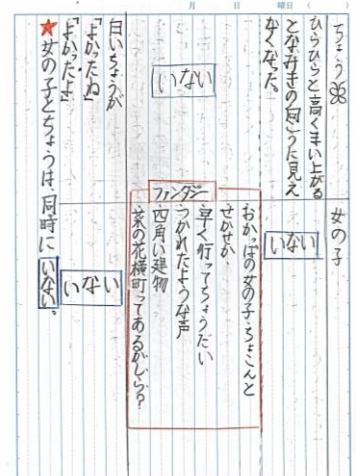
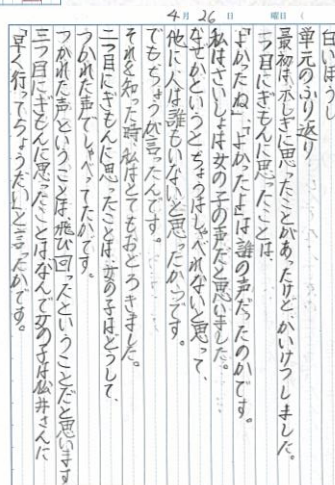
初発の感想から課題を考えました。～読み深めたいこと～



4年生として、ノートを工夫して書くことに力を入れました。～子供のノートより～



・クラスで立てた疑問について、本文にある内容から根拠をもって考えることができました。最後のふりかえりでは、授業を通して考えたことや解決できた疑問についてまとめることができました。



六年「帰り道」

単元のめあて

視点のちがいに着目して読み、感想をまとめよう

「律」の視点 「周也」の視点

学習計画

時	学習活動	感想・ふり返り
1	学習計画を立てる。 全体を読み、場面を分ける。	1と2でお話は同じなのに視点がちがうから新しくておもしろいと思った。
2	それぞれの場面で 律の考え・気持ちを読み取る。	色々な情景がうしやが使われていて考えや気持ちがちがよくなった。
3	それぞれの場面で 周也の考え・気持ちを読み取る。	律と周也で同じ出来事でも感じがちがった。おもしろかった。
4	人物像をまとめる。	律がどんな人物なのかがよくわかった。律から見た律と周也から見た律の印象が違くて心情由縁で二人の気持ちの変化を知ることができた。
5	二人の心の変化・関係の変化を 考える。	

視点のちがいに着目して、登場人物の心情の変化や人物像をとらえていきました。

めあて
視点のちがいに着目して、律と周也の人物像を考えよう。

① 教科書の全文をもう一度読み、律の心情を表している部分に赤線、周也の心情を表している部分に青線を引きましょう。

② 律の人物像について考えましょう。

★律の人物像につながる言葉を教科書から探し、そこからどんな人物像が想像できるかをかんたんに書いてみましょう。(例を参考に三つくらい)

★そんな律を周也はどう見えていますか。

律の人物像につながる言葉	そこから想像できる人物像
おんごうとした。	↓ おく病
もうだめだ。追いつけない。	↓ すぐにおさまらるる
さんざん腹をかかえ。	↓ 単純な性格
思っていることが	↓ 気が弱い優柔不断
ほんで言えなけんたらう。	

★右の表にまとめた言葉を使って、律の人物像を一文にまとめましょう。

マイペースで物事の判断がなかなかつかず気が弱いがいざとなったら勇気を出せる

男の子

話がはきりしない
おっとりしている
おちついてる
おやうそつ
ゆるやかな
① 優しい
② 合理的
③ ずいぶん

③ 周也の人物像について考えましょう。

★周也の人物像につながる言葉を教科書から探し、そこからどんな人物像が想像できるかをかんたんに書いてまとめましょう。(例を参考に三つくらい)

★そんな周也を律はどう見えていますか。

周也の人物像につながる言葉	そこから想像できる人物像
野球の練習を休んだ	↓ 友達思い、優しい、心配性?
もうおそい	↓ 人の気持ちにすぐ気がつく
だれかといるときの	↓ 読みとれる、相手のことをかんちくかき見ている
は、きりしない律に	↓ 短気、短り、ほい

★右の表にまとめた言葉を使って、周也の人物像を一文にまとめましょう。

おしゃべりで短気な性格だが、人のことをよく見ていて自分の行動を振り返ることができる素直な

男の子

話があらこち飛ぶ
自分より話長たしてる
どんなこともサボよくのりこえる
かんたんへんてん
① 優しい
② テンションがいい
③ ずいぶん人にまっすぐ

対話を通して、自分にはない考えを吸収し考えを広げていきました。

